

## 5 研究テーマに基づいた実践事例

### 南さつま市社会教育委員の会 提言事業 ～「家族でチャレンジ！in南さつま」・「親子で楽しむ作文教室」～

南さつま市教育委員会生涯学習課  
社会教育指導員 内田 昭弘

#### 1 はじめに

南さつま市社会教育委員の会は、年2回開催し、実施事業・提言事業の成果報告及び今後の課題、社会教育功労者の諮問等を協議している。

ここでは提言事業のテーマを2か年ごとに設定しており、令和6年度・7年度のテーマは前年度までの趣旨を生かして、親子や家族で体験的な活動を通し、交流を図りながら楽しむ機会を提供する事業を進めていく意味を含め「家族で取り組む交流・体験的な活動の充実」と設定している。事業推進に当たって、関係団体や講師等の支援や連携を取りながら進めている。

#### 2 取組の実際

##### (1) 「家族でチャレンジ！in南さつま」

令和2年度から取り組み大変好評を得ている事業でペットボトルロケットを家族で作成し、打ち上げまでを体験している。

家族で協力しながら、炭酸飲料用1.5Lのペットボトル2本を組み立てた本体に、1Lの牛乳パックで作った4枚の羽根と、先端におもりを取り付ける。ロケット本体に少量の水を入れて空気で圧力を加えるとロケットは発射台から勢いよく飛び出し、7家族21人の参加親子の歓声が響いた。

今年のロケットは50m～95m飛び、子供たちは距離認定証を笑顔で受け取った。「作るのと飛ばすのが楽しかった。」「ロケットが高く、遠くまで飛んでうれしかった。」等、感想からも満足した様子がうかがえた。

家族がモノづくりを通して人々とふれあい、「つながり」の大切さに気付くことができる機会である。

#### 家族でチャレンジ！in南さつま

家族合計20人まで参加！家族でペットボトルロケットをつつて、遠くまで飛ばしてみませんか？

会場：県立南薩少年自然の家  
主催：南さつま市教育委員会  
共催：日本宇宙少年団加世田カノープス分団

日時：令和7年7月19日(土) 9:00～12:00  
日曜：9:00～9:30 受付(現地)  
9:30～9:45 オリエンテーション、安全啓発活動(危険予知トレーニング)  
9:45～11:45 ペットボトルロケット作成(途中休憩あり)  
11:45～12:00 アンケート記入 → 解散(現地)

集合・解散：現地(県立南薩少年自然の家) QRコード  
対象：南さつま市内小・中・義務教育学校児童生徒及びその保護者  
携行品：炭酸飲料のペットボトル(1.5L)2本、牛乳パック(1L)2個、水筒等  
※お子様が複数参加される場合は、ペットボトルと牛乳パックを複数お持ちください。

申込期間：5月26日(月)～6月13日(金) 先着順  
申込先：QRコード (QRコードは(株)デザインワークス提供です)

- 参加にあたって配慮が必要な場合は、お気軽に御相談ください。
- 天候不良等により実施できない場合は、電話にて御連絡いたします。
- 本事業の活動風景の写真や感想等を使用することがありますので、御了承の上、お申込みください。

#### 【募集チラシ】



【夢中でロケットを制作する親子】



【ペットボトルロケット発射の様子】

## (2) 「親子で楽しむ作文教室」

令和5年度までは「家族で体験！マリンスポーツ in 坊津」を計画していたが、悪天候やコロナ禍による中止が続き、家庭学習で悩みの多い作文を、親子で学習する機会と事業の見直しを図り、今年度で2回目を迎えた。

7家族16人の参加者からは、「何を書けばよいか『おおきいみかん』を使って書くと分かりやすい。」「折り句で親子で辞典をひきながら言葉を探すのが楽しかった。」「『書き広げ』『コンクールに学ぶ』は、大人にとって興味深かった。」など、作文教室で学んだことを今後に生かしていこうとする積極的な感想を聞くことができた。

親子で思い出に残る出来事や身の回りの素材を見付け、一緒に語り合い、書くことの楽しさを味わう機会である。

**お悩み解決いたします！**  
**「親子で楽しむ作文教室」開催！**  
**「家族合計20名を大募集！」**  
 親子で思い出しに探る出来事や身の回りの素材を見付け、一緒に語り合い、書くことの楽しさを味わってみたいませんか？  
 会場：南さつま市市民会館 第1会議室  
 主催：南さつま市教育委員会  
 日時：令和7年7月2日（土）9:15～12:00  
 日時：9:00～9:15 受付  
 9:15～9:20 開会行事等  
 9:20～11:40 親子で題材の見つけ方や書き出しの工夫などを学びます。  
 11:40～12:00 閉会行事（アンケートなど）  
 対象：南さつま市内  
 小学校・義務教育学校（6年生まで）の見学及びその保護者  
 ※参加費無料（ただし、筆記用具（鉛筆、消しゴム、下書き等）は各自で準備してください。作文用紙は提供します。）  
 ※定員に達した場合は、早期に締め切る場合があります。  
 ※ 昨年度の受講生は、今年度の受講をご遠慮下さい。  
 ※申込先：QRコード（QRコードはQRコードリーダーアプリが必要です）  
 ○ 家族で申し込んでください。但し、未就学児の応募はできません。  
 ○ 台風・災害、その他やむを得ない事情で、実施できない場合は、電話にて御連絡いたします。  
 ○ 作文教室の活動風景（写真）や感想等を使用することがありますので、御了承の上、お申込みください。

### 【募集チラシ】



【折り句の言葉探しをする親子】



【「おおきいみかん」を確認する様子】



【作文を発表する参加者】

## (3) その他

南さつま市子ども会育成連絡協議会では、イン・リーダー研修会や各支部で様々な活動を行っている。

加世田支部子ども会育成連絡協議会では、6月28日、第1回成人指導者研修会が行われた。レクリエーションやKYTの指導、屋外でのテント設置や飯ごう炊飯、炊きあがったご飯の試食等、37人の参加者は楽しく活動できた。単位子ども会の指導者や保護者を対象に、子ども会活動でキャンプの楽しみや安全啓発の進め方等を体験し、一年間の子ども会活動が有意義で安全なものになるよう学習した。また、子ども会の運営の在り方を学び、円滑な運営と楽しい子ども会づくりに役立てる機会とした。



【テント設営の様子】 【飯ごう炊飯の様子】

## 3 おわりに

かつては、地縁など自然に存在するつながりがあったが、少子高齢化や家族形態の変化等により、意識してつながりを構築しなければならない時代を迎えている。人生100年時代、つながる場や機会の提供に加え、つなぐ人材、つながりをより強める専門的知識や技能をもった人材の育成が求められるなど、大きな変化が訪れている。そして、誰もが継続的なウェルビーイングを自覚し、多様な人々のウェルビーイングを尊重する社会づくりには、教育の役割が大きい。

今後も社会教育委員の会で事業の見直しを図り、親子や家族で体験的な活動を通し、「地域と人がつながり」ながら交流を図り、楽しむ機会を提供する事業を進め、更に高齢者や未就学児も参加できる事業へと広げていきたい。

## ふるさと学寮

### ～いきいきと生きる力を育む学びのまちづくり～

伊佐市教育委員会社会教育課  
社会教育係長 段 勇樹

#### 1 はじめに

ふるさと学寮は、「子供たちが家庭を離れ、集団で通学合宿を行う」事業で、この事業を通して、子供たちの自主性、協調性、忍耐力や連帯感を養う目的で実施している。この取組は、伊佐市が誕生する以前、旧菱刈町において実施されていた事業であり、合併後も市内のコミュニティ協議会において引き続き実施され、本市の伝統ある事業の一つになりつつある。今年度も地域、学校、教育委員会が連携し、14校区中13校区において実施された。

#### 2 ふるさと学寮の主な内容

ふるさと学寮は、本市と各校区コミュニティ協議会が社会教育事業の業務委託をしており、その業務の一つとして取り組んでいる。

それぞれの校区で実行委員会を立ち上げ、社会教育推進委員を中心に実施している。6月下旬から7月上旬にかけて、平日に2泊3日、あるいは3泊4日で行われ、令和7年度は2泊3日で実施した校区が9校区、3泊4日で実施した校区が4校区であった。対象者は小学4年生から6年生とし、校区においては希望者のみのところや、対象者全員参加のところも見られた（令和7年度は総勢167人が参加）。

参加条件として、①心身ともに健康な子供、②期間中に習い事やスポーツ少年団等には参加できない、③原則として、期間中に保護者とは会えない、④親子事前説明会および実施後の反省会には参加する、⑤学寮実施中の途中参加は認めないとしている。宿泊先は校区公民館、市の施設、キャンプ場等を利用し、単独での実施が困難な校区においては、合同で行っている校区もある。

期間中、子供たちは地域の方々の協力をもらいながら、基本的に自分の身の回りのことは自分で行うこととしており、掃除や食事の準備・片付けはそれぞれ役割を分担し協力して行っている。入浴については、ほとんどの校区が市内の温泉施設を利用しているが、校区によっては伝統的に地域の方に協力をいただき「もらい風呂」を実施しているところもある。

#### 3 期待される効果

小学生が異年齢の友達と地域で寝泊まりを共にする体験は、教室内の学習だけでは育ちにくい自主性と協調性を育む貴重な機会となる。高学年の児童は、リーダーシップや思いやり、責任感を培い、年下の児童は、年上のお兄さんお姉さんの行動を観察し、協働のコツを身に付けられる。また、



【掃除の様子】



【星空観察会】

共同生活の中で役割分担を決め協力して食事を作り、片付けを分担し、困ったときは支え合う経験を繰り返すことでチームワークが深まる。

異年齢の子供たちの中に地域の方々が支援という形で携わることにより、最近注目されている「非認知能力」を養うには格好の場といえる。

地域においても、地域にある拠点施設を活用し「ふるさと学寮」を実施することにより、地域の方々が支援者として協力することで自分も地域の一員として貢献しているという自覚が生まれる。また大人も子供に指導することで、学び直しの機会を得て地域の未来を支える新たな役割を担う。地域の教育力が高まれば、地域経済の活性化や防災力の向上といった効果も生まれ、結果として住民の生活の質が向上する。



【夕食の準備】

#### 4 今後の課題

「ふるさと学寮」は家庭・学校・地域の連携が不可欠だが、宿泊施設の確保が難しい支援者の負担が大きい等、様々な課題もある。今年度は1校区では開催が困難ということで、2校区合同で開催した地域もあった。宿泊先は、キャンプ場のバンガローを活用した。学校への送迎は支援者がそれぞれ行っており、これだけでも支援者の負担はかなり大きいものとなる。支援者の確保により、負担軽減を図る必要がある。

また、今後少子化が進むと1校区での開催が困難になり、自ずと近隣の学校と合同で開催することが予想され、地域の人々との交流する機会が減り、校区の特色が薄れることが考えられる。今後は、合同開催の利点と地域性の維持を両立させる工夫が求められる。

#### 5 終わりに

ふるさと学寮に参加した子供たちから感想を書いてもらっているが、校区によっては毎日感想を書いてもらっていたり、事業終了後には保護者からも感想文をいただいたりしているところがある。それらを支援者にも読んでいただくことで、地域と家庭の連携は更に強くなると思われる。子供たちの感想では、「食事や自分の身の回りのことを

自分で行うことで、親のありがたみを知り、家庭でも手伝うようにしたい」や「食事を準備する際に地域の人に声をかけてもらって嬉しかった」など、非日常の体験をすることで感謝する気持ちが芽生えているように感じられる。地域を巻き込んで実施するふるさと学寮の相乗効果はとても大きい。今後も家庭・学校・地域の連携を更に強め、行政も引き続きサポートすることで、いきいきと生きる力を育む伝統ある事業を継続して実施できるように努めていきたい。



【夕食の様子】

# 人々の幸せや生きがいの基盤となる図書館事業 ～子どもの読書活動推進を通して～

県立図書館奉仕課  
企画指導係長 児浦 由果

## 1 はじめに

図書館は、人々の生涯学習を支える拠点という役割をもつ社会教育施設の一つである。技術の進歩や社会の多様化、予期せぬパンデミックなど、予測不能なこの時代において、図書館は単なる本の貸出し場所ではなく、人々が自律的に学び続けるための拠点としての役割をもつ。

これからの時代を担う子どもたちにとって、読書センター機能・学習センター機能・情報センター機能をもつ学校図書館を活用することや公共図書館の存在を知ることが、豊かな心を育み、知識を習得し、柔軟にたくましく生きていく力につながると考える。

県立図書館では、「人づくりに貢献し、成長し続ける図書館～『知と知恵の拠点』を目指して～」の基本理念の下、各種様々な事業や環境整備に取り組んでいる。子どもたちが夢や希望をもち、困難な課題を解決しながら自分らしく幸せに生きるための基盤となるよう、当館でも子どもの読書に係る事業を展開している。ここでは、特に子どもの読書活動の推進という観点から、当館の取組を紹介する。

## 2 子どもの読書活動推進に係る事業

### (1) 親子読書研修会 椋鳩十生誕 120 周年記念事業

今年度は、昭和22年から19年間、県立図書館の館長を務める傍ら、数々の児童文学作品を生み出した椋鳩十氏の生誕 120 周年記念事業として実施した。椋鳩十氏の功績は数多く、その中の一つに「親子読書運動」の全国展開がある。今年度の親子読書研修会では、椋鳩十氏の孫である久保田里花氏による講演会を実施した。親子読書運動に対する椋氏の思いや願いが伝わる講演は、保護者や教員、読書グループなど子どもの読書活動に携わる参加者にとって、改めて、親子読書の重要性について考える機会となった。



【講演会の様子】

### (2) 講師派遣事業

本事業は、県内各地で実施される研修会に当館の指導主事を派遣する事業であり、例年、20件ほど実施している。

6月末の曾於地区学校図書館協議会の研修会は、教諭や学校司書を対象に実施された。同研修会においては、第5次鹿児島県子ども読書活動推進計画や学校図書館の役割、公共図書館等との連携の必要性について確認した。また、9月中旬には、子育て支援センターが実施する家庭教育学級に講師を派遣した。乳幼児とその保護者を対象に指遊びや読み聞かせを行う等、家庭における乳幼児期からの読み聞かせの大切さを伝えた。



【家庭教育学級の様子】

### (3) 学校図書館講座

本事業は、県立図書館において実施する学校図書館向けの講座であり、今年度は7月に「幼稚園・小学校」講座、8月に「中学校・高等学校」講座を実施した。教諭や学校司書を対象とした、子どもの読書活動や図書館の利活用に関する講座内容であった。講義や実習を交えながら、それぞれ2日間実施した。教諭・学校司書それぞれの資質向上を目指し、毎年実施している本講座は、関係法令等を確認するとともに、実務的な内容を学べることから、受講者から好評を得ている。



【読み聞かせ実習の様子】

### (4) 来館研修

本事業は、団体及び個人が来館して実施する研修である。各研修内容に応じて、当館の指導主事等がプログラムを組み、対応する。対象者は幼稚園児から高校生、一般までと幅広い。特に幼稚園や小学校の来館研修では、図書館利用の確認や図書館見学を通して、本や図書館に興味を抱かせるとともに、図書館利用や読書を促すことをねらいとしている。当館の本に感動し、本への興味を膨らませていく子どもたちの姿は毎回とても印象的である。



【図書館見学の様子】

### (5) その他

#### ア 「おはなしのじかん」

児童文化室や児童庭園にて、水曜日の午後3時半から手あそび歌や絵本の読み聞かせ等を毎週実施している。

#### イ 読書活動推進人材スキルアップ研修会

本研修会は、各地区において開催している。

読書活動に携わる全ての方を対象に、子どもの読書活動を推進するための実践事例の紹介やワークショップを通じた研修会であり、今年度は南薩地区と始良・伊佐地区において実施した。



【おはなしのじかんの様子】

#### ウ 参考資料の作成

子ども・保護者・指導者が活用できるように、「にじいろのほん」や「モデルリスト」、「高校生が薦める本」等のおすすめの本リストを作成し、公開している。

## 3 おわりに

『活字の林をさまよい 思考の泉のほとりにたたずむ』

これは、椋鳩十氏が読書の奥深さを伝えた言葉である。想像力や共感力、知識力、思考力、語彙力、表現力等の読書がもたらす様々な力は、人が幸せや生きがいを感じながら生きるうえで欠かせない力であると考えます。

当館の子どもの読書活動の推進を目指した事業は、保護者や教職員、一般の方等、主に子どもを支える人々を対象に実施している。今後も、読書の重要性や図書館の役割について、多くの方に理解を深めていただけるよう努めていきたい。